



伝統をつなぐ 白石夏まつり

白石の夏の風物詩

8月9日、50年以上続く夏の風物詩「白石夏まつり」が開催されました。本年は、白石城開門30周年を祝う夏まつりとして開催。天候にも恵まれ、市内中心部が約1万6,000人の人出でにぎわいました。

午後3時から始まったまつりは、すまいる広場のステージで、陸上自衛隊船岡駐屯地「船岡さくら太鼓」の皆さんによる勇壮な和太鼓演奏でスタート。続いて、小野越郎さんの津軽三味線演奏や、市内ダンススクール、日本舞踊教室に通う子どもたちが日頃の練習の成果を披露しました。司会のワッキー貝山さんが会場を盛り上げ、観客からは出演者の素晴らしいパフォーマンスに歓声が上がっていました。

寿丸屋敷では「白石和紙あかり展」を開催。ワークショップに参加した皆さんが製作した白石和紙のあかり80点、同時開催の「白石和紙絵てがみ展」では、市内小学校の子どもたちが描いた和紙絵手紙540点が展示され、夏の夜を幻想的に彩りました。

白石駅前通りでは、白石音頭と盆踊りが行われ、会場には多くの踊り手が集結。小野さんの津軽三味線の音色が踊り手を盛り上げ、白石音頭・盆踊りの参加者は華やかな浴衣や思い思いの格好で踊りを楽しんでいました。

また、会場には、友好都市である札幌市白石区の久保田史市民部長、白石区ふるさと会の宮野多加子幹事のほか、あわせて4人の方にご来場いただき、まつりの熱気を堪能していただきました。

まつりのフィナーレには白石城の上空に約200発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を鮮やかに彩りました。

1_日頃の練習の成果を披露する碧水園子ども日本舞踊教室の皆さん 2_陸上自衛隊船岡駐屯地「船岡さくら太鼓」の皆さんによる大迫力の和太鼓演奏 3・4・5_大鷹沢こども太鼓、Dance School Groovy、子どもたちによるうーめん体操が会場を盛り上げました 6・7_音楽に合わせて踊りを楽しむ参加者。駅前通りは多くの人でにぎわいました 8_飲食コーナーに30のブースが大集合。どこのブースも大人気でした 9_会場であいさつする白石区ふるさと会の宮野幹事 10_夏の夜を幻想的に彩った和紙あかり展